

## ISO/IEC/JIS Plastics 事務局便り 2018 年 1 月

### ISO/TC61/SC4(燃焼挙動)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC4 はプラスチックの燃焼挙動に係るプラスチック共通の試験方法に関する規格を担当しており、現在、3つの追補を含め 27 規格が発行され、5 件の開発中案件が活動しており、幹事国は英国 (BSI)、幹事は Mr. Petar Luzajic で、議長は Mr. Stephan J Grayson(英)が務めている。現在、5つの作業部会(WG)で、日本を含む 24ヶ国が P-メンバーとして活動に参加している。また、O-メンバーとして 13ヶ国が参加している。

プラスチックは電気製品、建材、家庭用品から船舶・車両などの素材として広く用いられていることから、ISO/TC92(火災安全)、IEC/TC89 (電気製品の耐火性)、CEN/TC127 (建築材料の防火)、CEN/TC257(鉄道車両)、IMO(国際海事機関)、FAO(国連食糧農業機構)など関係する分野との連携を深めている。

本稿では ISO/TC61/SC4 の最近動向及び国内ミラー委員会 [当連盟の ISO/TC61/SC4 委員会：吉田主査 (日本舶用品検定協会)、国内委員会と呼称] の関連する活動状況の概要を記す。

#### 1. WG2(燃焼生成物：煙及び腐食性)

コンベナーは、Mr. Eric Guillaume (仏)で、「発煙性試験(ISO 5659-シリーズ)」、「燃焼生成物による腐食性試験(ISO 11907-シリーズ)」等の規格を担当しており、現在 5つの規格が発行されている。

ISO 11907-1(燃焼生成物の腐食性：ガイダンス)はタイトルを“general requirements and applicability”とし新規提案が成立し、CD 段階へ進んでいる。ISO/TC92 で開発されている ISO 19021 (燃焼生成物の FTIR によるガス分析方法) は今年中に TS として発行する予定である。

#### 2. WG8(着火性と火炎の拡大)

コンベナーは、Mr. Marcelo Hirschler (英)で、「着火源の分類規定(ISO 10093)」、「着火温度試験(ISO 871)」、「垂直、水平燃焼特性試験(ISO 9772,9773)」、「酸素指数燃焼性試験(ISO 4589-1

～-3)」、「燃焼の広がり試験(ISO 12992)」、「燃焼発熱量に関する試験法(ISO 13927, ISO 21367)」、「試験炎による燃焼試験(IEC 60695-11-10,-20)」等の規格を担当し、現在 12 の規格と 3つの追補が発行されている。

マイクロカロリメータとしては ASTM 規格があるが、ISO 独自の規格を開発するためタスクフォースを設置して検討を進めることとなった。

また、片野委員が担当する酸素指数 3 規格は経済産業省の国際標準化事業として改正作業を行っていたが、改正が終わり本年発行された。

さらに、JAXA を中心に経済産業省の国際標準化事業として新規提案を予定している「微小重力におけるプラスチックの燃焼性の評価方法」については、装置及び試験方法の規格と理論の説明文書 (TR 又は TS) に分けるという意見が大半を占め、装置及び試験方法規格については新作業提案が承認された。

### 3. WG9(複合材及び中間製品)

コンベナーは、吉田主査で、担当の発行規格は、「複合材の燃焼挙動の一般指針(ISO 25762)」、「中間規模燃焼試験の指針(ISO 15791-1)」及び「繊維強化高分子複合材料の中間スケール耐火試験(ISO 30021)」の 5 つの規格を担当し、開発中案件として、ISO TS 15791-2 があったが、DTS を終了し、本年中に発行される見込みである。

### 4. WG10(ライター)

コンベナーは、Mr. Steve Burkhart(米)で、「ライター」関係(ISO 9994, ISO 22702)の 2 規格を担当しており、改正規格が発行される予定であったが、安全サインについて TC145(図記号)との調整に時間を要しており、未だに発行に至っていない。

### 5. WG11 (TR20118 の開発)

コンベナーは、Mr. Roland Dewitt(ベルギー)で、現在、TR 20118(塩化ビニルの燃焼特性)について WD がほぼ完成し、CD として回覧した後、来年の国際会議までに DTR 投票を終了させる予定である。